

## 2020 SUPER GT 第3戦 鈴鹿サーキット

2020年8月22日(土)

### 予選

来場者:無観客

天候:晴れ

2020年のSUPER GTシリーズ第3戦は、富士スピードウェイの2連戦から鈴鹿サーキットへと舞台を移した。37号車 KeePer TOM'S GR Supra は、チームメイトの36号車に1ポイント差でこの第3戦へ臨みウエイトハンディも2番目に重い58kg。苦戦が予想される中でも練習走行中でピットインを繰り返しながら細かなセッティングの修正を行い最終的に好感触のセッティングを見出して予選に臨むことができた。

しかし、Q1でコースインをした途端、タイヤから激しいバイブレーションが起こってしまい、不本意なタイムしか記録することができずに11番手でQ1敗退して予選を終えた。



- ニック・キャンディがQ1を担当した。
- コースインした途端に激しいバイブレーションを感じたが、そのままタイムアタックに移るしかなく周回。
- タイヤのウォームアップを終えて1分48秒台に突入、そして次周にタイムアップして1分47秒648まで詰めた。
- しかし、0.16秒の差でQ1突破はならず、ここで予選は終わりを告げてしまった。
- 平川 亮の予選走行チャンスは無かった。

Driver	Car No.	Qualifying 1		Qualifying 2	
平川 亮	37	P11			
ニック・キャンディ			1' 47.648		

天候/路面	晴れ/ドライ
気温/路面温度	33~34°C/48~48°C

## 平川 亮



「本来だったら練習走行でロングラップして、決勝へ向けてのセットアップ確認をする予定だったのですが、現場でかなりセットアップを変更せざるを得なかったため、セッティングを変更する度に確認のためのショートラップを繰り返していました。Q1ではニックがコースインしたらバイブレーションがあったみたいですね。どの程度だったのかは、僕はドライブしていないので分かりませんが、データでもはっきりと出ていました。決勝は重さなり、ハンディなりに淡々と周回を重ねて、結果としてポイントが取れば良いと考えています。」

## ニック・キャンディ



「練習走行でいろいろなことをトライしてくれて、マシンの状況はどんどん良くなって、予選に向けて希望が持てる状況となっていた。ウェイトハンディが重く、燃料リストラクターが装着されているが、かなり良かった。そこまで仕上げてくれたチームに感謝している。しかし、Q1でコースインした途端、激しいバイブレーションに見舞われた。前が見えないほどのバイブレーションだった。タイヤかホイールの問題なのか。それが無かったら完全にQ1突破はできた。その問題が決勝には出ないことを祈るだけだ。」

## 小枝正樹 (エンジニア)



「鈴鹿に持ち込んだ状態のセットアップを外してしまいました。申し訳なかったです。練習走行でかなりセットアップ変更を行って、結果としてなんとかバランスが取れる状況まで持っていけたのは良かったのですが、今度はQ1でコースインしたらバイブレーションが発生しました。チェックしたら3本のタイヤに振動が出ていました。それがタイヤ自体なのか、ホイールなのか、それとも他の要因なのか。現時点では、それを探っている状態です。そして、フロントタイヤの1本にフラットスポットが発生してしまっているため、それは交換してもらいます。まずは、トラブルを解消して、それを決勝前のフリー走行でチェックします。問題がクリアになっていることを祈ります。」

## 東條 力(チーフエンジニア)

「なんとかセッティングを出せたかなと思っていたら Q1 でまた新たな問題が発生してしまいましたね。タイヤのバランスが原因ではないかと思われるので、ブリヂストンさんにチェックしてもらっています。バランスだったら、リバランスすれば問題は解決しますので、決勝は問題ないでしょう。しかし、一本はフラットスポットができてしまっているので、それは交換しなければなりません。レギュレーションに不可抗力で破損、問題が起こったタイヤは 1 本交換が許されるので換えていただきます。37 号車も決勝では 5 ポイント獲得が目標です。」



## 山田 淳 (監督)



「鈴鹿に来てからかなりドタバタとしてしまいました。大幅にセッティングを変更せざるを得なかった状況です。それでもなんとか予選には間に合ったかなと思います。しかし、またしてもトラブルが発生しました。ニックから前が見えないくらいのバイブレーションとレポートしてきましたが、そこで止めるわけには行かないので走行を続行してもらいました。結果として Q1 突破はできませんでしたが、ニックのコメント通りにトラブルが無ければ Q2 に進出できたでしょうね。それだけマシンの状態は良かったので、残念です。バイブレーションの原因がはっきりと分かって、解消して決勝を迎えたいです。」

## 館 信秀 (総監督)

「持ち込みのセットアップを外してしまったようだ。狙っていたセットアップが状況に合わなかったということだけど、短時間にセットアップ変更して Q1 出たら、バイブレーションが発生した。大きな問題に発展しないことを祈るしかない。タイヤのバランスだけで問題が解決してほしい。37 号車は、チャンピオンを経験している。幾多の困難にもめげずにこれまでも戦ってきた。【決勝に強いトムス】をこれまで何度も証明してくれた。今回も期待している」



## 2020 SUPER GT 第3戦 鈴鹿サーキット

2020年8月23日(日)

## 決勝

来場者:無観客

天候:晴れ

37号車 KeePer TOM'S GR Supra の第3戦は11番手グリッドから始まった。1周目からセーフティカーが導入され、波乱含みの展開が予想された。結果的に52周の300kmレースでは合計3回のセーフティカーランが行われている。接触、コースオフが頻発する中で37号車は、アクシデントに巻き込まれることもなく周回を重ねた。2回目のセーフティカーランが明けた後にピットインし、ドライバー交代。その直前で他車との接触。ピット作業に手間取って順位を下げてしまうも、終盤で順位アップを目指し周回。7位でレースを終えた。4ポイントを加算してランキング2位を堅持している。



- 予選で起きたバイブレーションは、解消された。
- キャンディがスタートドライバーを担当。スタートポジションを維持して周回。
- 14周目のトラフィックでポジションを落としてしまうが、すぐに2ポジションを挽回。
- 2回目のセーフティカーラン明けで多くのマシンがピットインする際にコース上にとどまって、プッシュして順位アップ。ピットイン前に一時的にトップへ躍り出た。
- キャンディは26周してピットイン。
- ピット作業に手間取ってしまって後退。全車がピット作業を終えて、9位まで順位を下げていた。
- 前半に空力パーツを破損。難しいドライブを平川は強いられることとなった。
- 平川はポジションを維持してゴールを目指し、他車が脱落するのを尻目に7位でゴール。4点を加算。計33点。もてぎの第4戦では、ウエイトハンディ66キロ(実ウエイト49キロ+燃料リストラクター1段階)となる。



Driver	Car No.	Race Result/Fastest Lap	
平川 亮	37	P7	1' 52.481
ニック・キャンディ			1' 51.1371

天候/路面	晴れ/ドライ
気温/路面温度	32~32°C/48~49°C

## 平川 亮



「今回も苦しいレースとなりました。マシンのバランスが悪くて、ドライブしにくかったです。恐らく 36 号車との接触があったみたいでフロントのカナードが破損しています。前後ともにダウンフォースが無くなってしまって、大変でした。毎週超高速コーナーの 130R を全開で走行できるかをチャレンジしていました。それが唯一の楽しみというか、チャレンジでした。ピットワークで遅れて、それが無ければ 36 号車の前に出られていた可能性が高いですね。7 位フィニッシュは、ラッキーな要因が大きいです。路面温度が高くて、タイヤパフォーマンスが厳しくてもスープラはそれを補ってコンスタントに走れるので、もてぎはまだリストラクターが一段階なので頑張れるかなと思っています」

## ニック・キャンディ

「7 位フィニッシュは、素晴らしい結果だけれど、レース中に起きたいろいろなことがもし無かったとしたら、我々は 36 号車の前でフィニッシュできていたのではないかと思います。グリッドの後方からのスタートはリスクも多いけれど、少しずつ順位を上げることができ、ピットストップ前にプッシュして、ピットイン後に大きく順位アップできるように頑張った。2 回目のセーフティカーランが明けて、フルスロットルで最終コーナーを立ち上がった前の方で失速しているマシンがあって詰まってしまって、直前にいた 36 号車に追突してしまいました。かなり大きなインパクトを感じて、フロントセクションに大きなダメージを負ってしまったと思ったけれど、パーツの破損だけで済んだみたいだった。36 号車もダメージは少なかったみたいで良かった。でも亮には申し訳ないことをした、大変なドライブを強いてしまった。」



## 小枝正樹 (エンジニア)



「7位は、及第点ですね。しかし、ピットワークを失敗してしまって、ドライバーには申し訳ないことをしてしまいました。あとは、亮のステイントではカナードを失っていて、ドライブしづらかったでしょうね。データチェックしたらはっきりとダウンフォースを失っていたので、それは明らかですね。4ポイントを獲得してハンディも増えますが、リストラクターが一段階のままです。次戦のもてぎは、サーキットの特性として特にリストラクターが入っていると厳しい。それが一段階のままであるというのは、巻き返しのチャンスと考えています」

## 東條 力(チーフエンジニア)

「トムスとしては、どうしても36号車のau号との比較になってしまいますが、37号車も上出来の一戦であったと評価しています。目標の5点獲得に1ポイント届かなかったですが、空力のバランスが悪くて苦勞したとは言え、ドライバーが本当に頑張ってくれました。ピット作業に手間取って、順位を落としてしまったのは申し訳なかったです。ニックが必死に順位アップしてくれたのにコース上の戦い以外のところで順位を落とすというのは、良くないですよ。これは大きな改善点です。次戦第4戦では、今回のようなミスをしないようにしなくてはなりません。」



## 山田 淳 (監督)



「予選日のセッティングの大幅変更に始まり、タイヤのバイブレーションなど、今回も不運が続いているのでスッキリとした気分ではないですね。7位でフィニッシュできたのは上出来ですが、何か釈然としないです。次戦ではスッキリと終えたいと思います。それには反省するべき点は反省して、ミスなく戦い終える。チームメイトとランキング1-2を保っているのは良いのですが、まだシーズンの前半戦ですから、今後どのような展開になっていくかは分からないので、一戦一戦を大事に、確実にポイントを加算していくことが大事です。現時点ではチャンピオン争いを意識はしていませんが、チャンピオンを獲得できるのは1チームですからね。今は次のレースだけを考えて頑張ります。」

「予選から 37 号車は、いろいろあった。バイブレーションは解消されたようだが、混戦の中で接触もあり、マシンのバランスが悪かったらしい。でも、37 号車については、ピット作業の問題が大きかった。少なくとも、あと一つ、二つはポジションをアップしてゴールできたのだろう。それでも、7 位というのは苦しい中でちゃんとゴールまでマシンを運んでくれたドライバーに本当にご苦労様と言いたいね。ポイントが取れてウエイトが重くなるけれど、燃料リストラクターが一段階のままだから、まだ頑張れるのかな。もてぎでもポイントゲットが目標だ。」

館 信秀 (総監督)

